

編集後記

2012年に上映された映画で最も印象に残った映画は、『最強のふたり（原題：Intouchables）』である。この映画は第24回東京国際映画祭コンペティション部門で最高賞を、第37回セザール賞で主演男優賞をそれぞれ受賞し、2011年にフランスで公開された映画の中で2番目のヒット作となった作品である。その内容は、パラグライダーの事故で頸髄を損傷し、四肢・体幹の運動と感覚が完全に麻痺し、首から上の機能だけが残存している富豪と、その介護人となった貧困層の移民の若者との交流を、実話をもとに描いている。そこには、介護する側と介護される側という関係はなく、介護に対して全くの素人であるがゆえの、純粋な人間と人間の関係がユーモラスに描かれており、専門家であるがゆえに陥りやすい心の通わない介護の問題点を鋭く指摘している。

四肢が麻痺した人が移動手段として用いる電動車椅子は、“electric wheelchair”または“powered wheelchair”と呼ばれるが、映画では主人公がこの最高速度を時速12km/hに改造して、ジョギングしている人やセグウェイ（Segway）を楽々と追い抜いて行く。

さて、椅子にすわってばかりいて活動しない人のことを、“chairwarmer”という。一向に進まない放射性物質の除染や東北地方太平洋沖地震の復興支援。新しい内閣には、“chairwarmer”の“chair”を“powered wheelchair”に改造して最善を尽くして頂きたい。

平成24年12月25日

京都在宅リハビリテーション研究会 世話人 代表 松本和久

京都在宅リハビリテーション研究会誌

第6巻

©平成24年12月25日発行

編集者 京都在宅リハビリテーション研究会事務局
(松本和久, 木村篤史, 富田健一, 永山智貴, 小西倫太郎, 林 愛子,
神田佳明, 垣村将典, 板谷有紀子)

発行者 松本和久
〒629-0392 京都府南丹市日吉町
明治国際医療大学附属病院 総合リハビリテーションセンター
TEL (0771) 72-1221

印刷所 光和印刷